モチベーション

今、サッカーワールドカップ、ウインブルドンテニスが活況を呈しています。この号が出る頃には勝者が決まっているでしょう。試合の勝敗を左右する大きな要因としてメンタル(精神的)要素が挙げられます。モチベーション－動機といおうか志と云ったほうが良い－その高さにおいて番狂わせも生じるでしょう。今後、当院としてもいろいろな局面(例えば病院機能評価)に対応していかねばなりませんが、モチベーションを高く保つことは第一に重要なことです。

院長　小川 洋史

写真：錦秋の涸沢テント村（上高地）　（撮影：小川 洋史）

在宅血液透析（HHD）のすすめ

新生会第一病院　院長　小川　洋史

在宅血液透析(HHD)は1998年4月に保険適用され、2013年12月末の患者数は461人で全透析患者に占める割合も0.147%と少ない。腹膜透析(CAPD)の2.9%(9,245人)に比べてもかなり少ない。また、HHDを知らない人も多い。

一般的に病気の治療法は長所・短所を伴うものだが、合併症が少なく生命予後が良く社会生活が十分にこなせることが最も求められる点であろう。HHDの最大の長所は、社会生活、家庭生活スケジュールに合わせ透析計画を立てることができる点である。一方、介助者が必要という点、教育を受ける期間、自己穿刺の問題などの短所もある。それは安全性に関わることであり、安全性の確保は最も重要な点で疎かにできないと考える。また、HHDに必要な給排水、電気工事代、毎月の維持管理費(上下水道代、電気代、器材配送代)も必要となる点も短所である。HHD普及の原点は医療者と患者双方の熱意にあると信じている。

近年、より死亡率を低くし生命予後を改善するには、4時間／回×3回／週の標準的な透析に比べ、長時間透析や短時間頻回透析が有用であることが報告されている。3回／週の標準的な透析においては、2日空きの体重増加から心臓負荷が生じるが、隔日透析はその問題を軽減できる。HHDは長時間透析、オーバーナイト透析も短時間頻回透析も可能であり、長く元気に社会復帰するという面を満たすものだと考える。

当院は1972年よりHHDを行っている。2014年7月の時点で当院では42名の人がHHD施行しているが、平均透析時間は18.2時間／週であった。標準的な透析の12時間／週に比べるとかなり長い。また、隔日透析や4～5回／週の透析を36名(87.8%)が行っており、透析の頻度もかなり高い。夜間睡眠中も透析を行うオーバーナイト透析は3名の人が行っている。

前述の如き長所が評価され、HHDが施設透析、腹膜透析、移植に続く慢性腎不全治療の第4の選択肢として選ばれることを切望する。

けんこう百花79号　新生会情報誌　#IOSPY

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

2014年9月1日発行　編集:患者サービス推進委員会　名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2　新生会第一病院　TEL:(052)832-8411